



教育の最終目的は「世界平和？」

校長 上原 浩

日本における現代は、1945年8月15日、太平洋戦争の終結から始まっていると考えている人が多いようです。宮田中の歴史も、その4年後の1949年から刻まれてきました。今年には戦後75年、3/4世紀という大きな節目を迎えます。

横浜駅から宮田中に向かう際、最も楽な手段は、「浜5」系統のバスに乗ることです。浅間下から三ツ沢のくねった坂を上ると、「三ツ沢総合グランド入口」に着きます。バスの停車中、目を凝らすと、右手向かい側にあるバス停奥のテニスコート、そのさらに先に、長さが違う2本の塔の一部を見ることが出来ます（よくよく目を凝らさなければわかりません）。この塔は、「戦没者慰霊塔」で、1953年に建立されました。その後、戦後50年となった平成7年に改修され、その時に説明板が付けられました。文中には、「この慰霊塔は、西南戦争から第二次世界大戦までの戦争犠牲者の御霊を安置するため、昭和28年3月に建設したもので、左の塔は、先の大戦ではらった大きな犠牲と破壊を表し、右の塔は、新生日本が将来にむかって発展する姿を表しています。市民の皆様と共に諸霊の御冥福を心からお祈りし、戦争の悲惨さを忘れることなく、恒久の平和を念じたいと思います。（中略）横浜市長 高秀秀信」と書かれています。宮田中が修学旅行で訪れている長崎の平和記念像は、天を指す右手は「原爆の脅威（長崎の過去）」を、水平にのばした左手は「平和（長崎の未来）」を示し、軽く閉じた瞼は戦争犠牲者の冥福を祈っています。どちらも、戦争の惨禍を忘れず未来の平和を願っているのです。



ここに慰霊碑があることは以前から知っていました。私が小学生の頃（なんと50年ほど前！）に父に連れられて来たことがあります。なぜここに来たのかは思い出せませんが、当時の塔は、おき出しのコンクリート製だった記憶があり、子ども心に重苦しく感じた思いが残っています。慰霊塔から市内が見渡せた気がするのは、周囲の樹木の背丈が低かったのかも知れません（何しろ半世紀も前のことですから）。慰霊塔がある場所は、神奈川県護国神社（完成直前に昭和20年5月29日の横浜大空襲で焼失）があった場所で、慰霊塔に続く石畳は、神社のための参道だったのかも知れません。現在は、イベント時に臨時駐車場にもなっています。

10年ほど前に、若い先生と「教育の究極の目的は何だ？」というような話をしたことがあります。難問です。その先生は「世界平和じゃないですか？」と答えました。自国（自分）だけでなく他国（他人）を含めて平和を実現していこうとする意欲と態度を持った人を育成する、自分もそうなること。答えはいくつあってもいいのですが、私も同じ意見でした。昨年10月、生徒が中心になって、宮田中の創立70周年記念式典が行われました。宮田中の歴史を学ぶ中で、地域の方や先輩方と共に、横浜市街と宮田国民学校が焼失した戦禍、食糧や物資が不足した時代を身近に学ぶことができました。未だに、世界中はコロナ禍に直面しています。コロナも戦争も「平和ではない状況」に変わりありません。程度の差はありますが、生命が脅かされたり、行動が制限されたり、何より「大きな不安」を毎日強いられています。宮田の子どもたちには、どんな時代であっても、「平和を創っていこうとする気持ち」を大切にしたいと願っています。また、そのような力を育てていくことが、私たち大人の使命であると思っています。梅雨の豪雨もコロナも、一刻も早く終わることを願っています。



「警報」による市一斉臨時休業（再掲：午前7時→「午前6時」に変更）

横浜市内に午前6時の段階で、「特別警報」「暴風警報」「大雪警報」「暴風雪警報」が発表継続中の場合、全市一斉に「臨時休業」となります。